

福島県「教員ネットワーク」の構築

— 理科・算数科教員ネットワークの試行的研究 —

福島県教育センター情報化推進研究チーム 指導主事 島 和宏
jyugyouni_it@ml.fks.ed.jp

<http://www.center.fks.ed.jp/15ken3/network.html>

キーワード：教員ネットワーク、算数、理科、小学校、教育情報

1. はじめに

本チームは、ITを活用した授業の質的向上を目指し研究を行っている。しかし、これまでの研究で構築したコンテンツが授業に必ずしも十分活用されていないことが課題であった。この改善策として、教育センターがコンテンツを構築する側、教育現場が活用する側という構図を改め、学校と教育センターが一緒になって授業づくりに役立つ情報を共有していくための「教員ネットワーク」を構築したいと考えた。授業を担当する教員のニーズや課題意識に基づいて、授業づくりに活用できる資料をも共有していく。また、協議を通して常に改善を加えていくネットワークの構築を目指す。この構築自体が広報活動にもなり、さらに多くの教員の参加により多様な指導に対応したコンテンツが収集できる。さらに、自らが参加したという意識が授業への活用意欲を高めることが期待できる。

2. 研究の概要

(1) 「教員ネットワーク」のモデル構築について

それを算数科・理科に関する学力が注目されている現状を踏まえ、まず今年度は「算数科教員ネットワーク」と「理科教員ネットワーク」を研究のモデルとして取り上げた。

(2) 研究の実際について

福島県内7域内から十数名の教員の参加により会を発足し、教育センターが支援するという形態で「教員ネットワーク」を立ち上げた。互いの課題意識を明らかにして、授業づくりに役立つ指導案等をWebサイトに掲載し、指導方法の改善につながる協議を行っている。

① 授業づくりに役立つ資料の共有を目指して

参加者から授業案の提供を受け、PDF形式で、Webサイトに掲載している。「教員ネットワーク」の構築という初めての取り組みのため、著作権の問題や参加者の意見提示のしやすいように、収集したコンテンツにはパスワードをかけ、会員のみ閲覧可能な状態で研究を進めている。

② 授業改善につながる協議の充実を目指して

意見交換には、トピックを増やすことができる掲示板を採用し、問題意識や授業に対する意見が多様に提示できるように工夫した。参加者には、まず、自己紹介、自分の問題意識、日頃の授業の様子からというように意見提示が自由にできるように、段階を追って意見を提供していただいた。

③ 実際の授業に基づいた深まりのある協議を目指して

ネットワークによる協議は、指導案の検討が中心になり、実際の指導や子どもの反応を検討することが難しい。このことを補うために、実際の授業を電子データに変換し、Web上で見ることができるようにした。子どもたちの反応を実際に見て、指導のあり方を追究できる協議にしていく。

3. 課題と今後の展開について

この研究を通して、小学校算数科・理科に関して授業づくりに役立つ資料を提供できるようになった。また、指導案とそれに対応した電子データによる実際の授業を今後県内の先生方に参考にしていただけると考える。

参加者の協議では、貴重な意見を多数提示していただいたが、深く指導方法を追究できるまでには至っていない。ネットワークという顔が見えない研究集団であるために、互いの考えがよく理解できず、追究を深めていくことができないことが原因と考えられる。初めての取り組みであるためどうしても構えてしまうという意見も出されている。

「教員ネットワーク」は、教員と教員とが双方向で協議できるような意志の疎通が基盤となる。今後、実際に顔を合わせた実践報告会も企画して、基盤の構築を図っていきたい。また、教科毎に多様なテーマに基づいた小集団による協議の場を設定し、教員が互いの考えを積み上げられるような「教員ネットワーク」に発展させていきたい。

